

第58回

コンチェルティエーノ
・ディ・キョウト
定期演奏会

58th Concertino di kyoto

主催 スズキメソード京都

2016
11.20 (日)
14:00 開演

京都コンサートホール
小ホール

A. ヴィヴァルディ 弦楽のための協奏曲 ト短調 RV157

H. パーセル シャコンヌ ト短調 Z.730

J.S. バッハ 3つのVnのための協奏曲 二長調 BWV1064
田崎 祐成 村山 直 林田 菜月

J.S. バッハ フーガ イ短調 BWV579

J.S. バッハ 管弦楽組曲 第2番 口短調 BWV1067
小野 蒼生

指揮 江村 孝哉



小野 蒼生 (おの あおい) フルート

兵庫県立川西緑台高等学校1年。2000年生まれ。10歳よりフルートを始める。第69回全日本学生音楽コンクール大阪大会フルート部門中学校の部第2位。同コンクール全国大会入選。第16回日本フルートコンヴェンションコンクールアンサンブル部門中学校の部金賞受賞。フルートを対馬潤に師事。

曲目解説

ヴィヴァルディ (1678 - 1741) 弦楽のための協奏曲 ト短調 RV157

この時代の器楽曲にはコンチェルト、シンフォニアなどの名が付けられていますが、どれも楽器編成や規模など曖昧な時代でした。この曲にも協奏曲という名称が付けられていながら、他のヴァイオリン協奏曲と異なりソロがなく合奏のみの曲となっています。生前には出版されなかったため演奏される機会が少ない曲です。第1楽章は、終始繰り返される3小節の半音階的な通奏低音の上にさまざまに変奏されたメロディーが遊び回ります。付点のリズムが掛け合う第2楽章を挟んで、第3楽章は忙しくする下降音階とリズムカルなアンサンブルを楽しめます。

パーセル (1659 - 1695) シャコンヌ ト短調 Z.730

ロマン派の流れが終わりを迎える頃にエルガーが楽壇に登場するまでのイギリスは音楽的にかなり不毛な土地で、ある作曲家が死去してから100年以上にわたる音楽的空白時代を経験しています。その作曲家こそ、イギリスバロック音楽を代表するヘンリー・パーセルです。パーセルの生涯は36年と短いものでしたが、彼が残した曲はおよそ400曲以上あり、どれもエリザベス朝時代のイギリス音楽が持つ諸要素と彼が取り入れたイタリアやフランス風が巧く融合し、自由奔放な彼独特の雰囲気を出しています。バッハで有名な「シャコンヌ」ですが、もともとバロック時代の舞曲で、4小節もしくは8小節からなる3拍子の主題と変奏曲の形を持つ荘厳な曲です。1680年頃の作品で、同一の低音音型に基づいて発展していきます。

バッハ (1685 - 1750) 3つのVnのための協奏曲 二長調 BWV1064

バッハ率いるライプツィヒ大学の学生を中心とする合奏団コレギウム・ムジクムによる演奏会のために、1台から4台のチェンバロを独奏楽器とする十数曲の協奏曲を書きました。それは、当代最高のチェンバロの名手と謳われたバッハが、自分と息子たちの腕前を広く一般市民に披露するためでした。これらのチェンバロ協奏曲のうち何曲かはオリジナルな作品ではなく、自身の作曲した他の楽器のための曲をチェンバロ用に編曲したものもありました。この曲は3台のチェンバロのための協奏曲の原曲にあたります。第1楽章冒頭でユニゾンによりテーマを奏する3つの独奏楽器は、第2楽章では緊密な会話を交わし、第3楽章ではそれぞれが華麗なソロを繰り広げます。

バッハ フーガ イ短調 BWV579

コレルリの「2つのヴァイオリンと通奏低音のためのソナタ 口短調 作品3 第4番」にもとづいて作曲されました。生涯ドイツを離れることのなかったバッハですが、海外からドイツを訪れる芸術家との交流や、ヨーロッパ各地で出版、写譜された楽譜を手に入れることにより、同時代の様々な国の作品を研究し、自ら音楽に積極的に取り入れ発展させていきました。とりわけバッハが強く感化されたのはイタリアの音楽で、そのイタリアらしい明るい音楽をバッハは絶妙に作曲・編曲しています。元になったコレルリの曲は39小節で、それをバッハは102小節に拡大しています。

バッハ 管弦楽組曲 第2番 口短調 BWV1067

フランスバロック音楽ではバレエやオペラの器楽部分を抜粋して「組曲」(Suite)とし、器楽のみで演奏する習慣があり、17世紀後半にはドイツにも広まった。4曲ある管弦楽組曲のうちの「第2番」は、実際には最後に作曲されたもので、1739年ライプツィヒで初演されたと推測されています。フルートを独奏楽器として用いていることにより、フルートのレパートリーとして欠くことのできない存在です。通奏低音を伴う弦楽合奏と共に、フルートパートはほぼ第1ヴァイオリンとユニゾンで始まります。大規模なフランス風「序曲」、素朴さと典雅さを具えた「ロンド」、カノンの様な展開を見せる「サラバンド」、フルートのソロを中間に配した「ブーレ」、気品に満ちた「ポロネーズ」、かわいらしい「メヌエット」、冗談という語源を持つ締めめの楽章「パディヌリ」の6曲から成っています。

コンチエルティーノ・ディ・キョウト

スズキメソード京都の最上級生による弦楽合奏団で故新井寛先生により昭和34年に設立され、毎週土曜日に集まって研鑽を積み、年1回の定期演奏会や発表会での演奏を行っています。フェリックス・アーヨやモーリス・ジャンドロン、ルイ・モイーズといった世界的な巨匠とも共演してきました。

Violin	田崎 祐成	村山 直	吉村 真綾
	林田 菜月	西辻 友結	柴野 真充
	林 莉子	市川 雄一	
Viola	江村美由紀	仲佐 悦子	佐々木めぐみ
Cello	和田瑛怜奈	森田 健二	
Bass	野々口真実		
Cembalo	永田 悦子		